

第21回（平成30年度第1回）
セーフコミュニティ児童虐待防止対策委員会

《会 議 次 第》

日時：平成30年4月6日（金） 14:00～

場所：市役所13階 1303会議室

1. 開 会

2. 報告事項

（1）平成30年度の主なスケジュールについて（資料1）

3. 協議事項

（1）平成29年度取り組み実績、及び平成30年度取り組み方針（案）について
（資料2）、（資料3）

（2）再認証取得に向けた本審査について

①申請書（資料4）

②プレゼン資料（資料5）

③現地調査スケジュール、活動視察（資料はありません）

4. その他

5. 閉 会

児童虐待防止対策委員会事務局
子ども未来部 家庭子ども相談課
担当：中井、森
TEL：0942-30-9063 . FAX：0942-30-9718

【児童虐待防止】 2-①乳児訪問事業の地域連携

< 拡充 >

課題	客観的課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で子育て家庭が孤立している ・虐待者の7割近くが実母である 					
	主観的課題	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てに困難を感じている保護者が多い ・子育ての相談相手がいない、相談窓口を知らない人が多い 					
目標	地域で気軽に相談できる体制作り						
内容	市が行っている「乳児訪問事業」の地域連携として、各地域の住民の一人でもある主任児童委員が同行訪問し、子育て中の保護者と地域をつなげ、孤立を防ぐ。						
対象者	子育て中の家庭の母親						
実施者	市（こども子育てサポートセンター）						
対策委員会の関わり	構成メンバーである久留米市民生委員児童委員協議会の主任児童委員が同行訪問している。						
29年度の実績及び改善した点等	<ul style="list-style-type: none"> ・市内5校区において市が行っている「乳児訪問事業」に主任児童委員が同行訪問し、子育て中の保護者と地域をつなげ、孤立を防ぐ取り組みを行った。 						
30年度の方針及び課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・民児協の主任児童委員部会、市（こども子育てサポートセンター）による協議を行いながら、同行訪問の拡大を図る。 						
指標	内容	単位	2013	2014	2015	2016	2017
活動指標	主任児童委員による妊産婦や子育て家庭への家庭訪問件数	件	4	1			
【短期】認識・知識	①子育てサロンの実施回数	回	470	457			
	②参加者数	人	13,801	13,641			
【中期】態度・行動	主任児童委員の同行訪問により子育てサロンにつながった割合 [市家庭子ども相談課統計]	%	100	100	100	100	100
【長期】状況	子育てに困難を感じることがある割合 [子育てに関するアンケート調査(5年毎)]	%	54.0	—	—	—	—

【児童虐待防止】 2-② 赤ちゃんふれあい体験事業 <拡充>

課題	客観的課題	核家族化や地域とのつながりの希薄化などの影響により、自分が親になる前に子どもと接する機会が減少している
	主観的課題	親になるための教育が不十分である
目標	親になるための十分な教育の支援	
内容	将来、親になる中学生に子育て体験をしてもらう。	
対象者	中学生、2015年度から小学生にも対象拡大	
実施者	各校区のすくすく子育て委員会	
対策委員会の関わり	構成メンバーである久留米市民生委員児童委員協議会の中の主任児童委員が実施している。	
29年度の実績及び改善した点等	<ul style="list-style-type: none"> ・実施校を拡大し、地域・小中学校・市の協働による事業を実施 <p>[中学校] 青陵中学校：6月8日（木） 江南中学校：6月15日（木）、27日（火） 田主丸中学校：9月5日（火）、6日（水） 宮ノ陣中学校：11月14日（火） 良山中学校：11月13日（月）、14日（火）、15日（水） 三潴中学校：6月9日（金）、7月14日（金）、9月8日（金）、11月10日（金）</p> <p>[小学校] 荘島小学校：9月8日（金） 小森野小学校：11月9日（木）</p>	
30年度の方針及び課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・実施校の拡大に向け、取り組みの手法について検討を進める。 	

指標	内容	単位	2013	2014	2015	2016	2017
活動指標	赤ちゃんふれあい体験・保育体験等の実施学校数	校	3	3	4	6	8
【短期】認識・知識	【旧】子ども自身から発せられた情報・相談の件数	件	0	0	0	1	95.8
	【新】命の大切さについての認識の向上 [参加者アンケート]	%	2017より実施予定				
【中期】態度・行動	赤ちゃんふれあい体験等の新規実施校数	校	1	0	1	2	2
【長期】状況	虐待しているのではないかと思うことがある割合 [子育てに関するアンケート調査(5年毎)]	%	13.8	-	-	-	-

【児童虐待防止】2-③ 児童虐待防止啓発事業

< 拡充 >

課題	客観的課題	<ul style="list-style-type: none"> 虐待を受けた子どもの大半は、小学生以下である 子ども自身からの相談が少ない
	主観的課題	子どもが虐待に関する正しい知識を得るための学習機会が少ない
目標	子ども自身から相談できる体制づくり	
内容	啓発活動（オレンジリボンの作製、街頭キャンペーン） 児童虐待防止の講演会の実施	
対象者	一般市民	
実施者	主に久留米市要保護児童対策地域協議会	
対策委員会の関わり	対策委員会の構成メンバーと連携した啓発活動等の実施	
29年度の実績 及び 改善した点等	<ul style="list-style-type: none"> 久留米大学学園祭（あのか祭）：10月28日（土）、29日（日） 来場者にオレンジリボンの啓発を実施 「マナビランド」：11月12日（日） 久留米大学生との協働により、オレンジリボンについてのクイズを行い、イラストが入ったメダル作りを実施 「荘島よかつ祭」：11月12日（日） オレンジリボン作りのコーナーを設置 街頭キャンペーン：11月10日（金） ゆめタウン、11月12日（日）西鉄久留米 11月の児童虐待防止月間に合わせ、利用者の多い上記2ヶ所で啓発グッズとチラシを配布 子ども理解を深めるための連続講座：1月20日（土）、2月4日（日）、2月11日（日） 児童虐待を防止するために、福岡県久留米児童相談所、民間団体、久留米市の3者による協働の事業での講演会を連続で開催 	
30年度の方針 及び 課題等	<ul style="list-style-type: none"> 児童虐待防止の認識と子育てに関する相談窓口等を、一層多くの市民に周知するために、実施内容等の検討を進める。 	

指標	内容	単位	2013	2014	2015	2016	2017
活動指標	イベントや講習会等の参加者数	人	932	1,058	1,003	688	1,130
【短期】認識・知識	【旧】子ども自身から寄せられた情報・相談の件数	件	0	0	0	1	
	【新】児童虐待防止の認識の向上 [参加者アンケート]	%	2018より実施予定				
【中期】態度・行動	【新】相談先の周知状況 [参加者アンケート]	%	2018より実施予定				
【長期】状況	虐待しているのではないかと思うことがある割合 [子育てに関するアンケート調査(5年毎)]	%	13.8	—	—	—	—

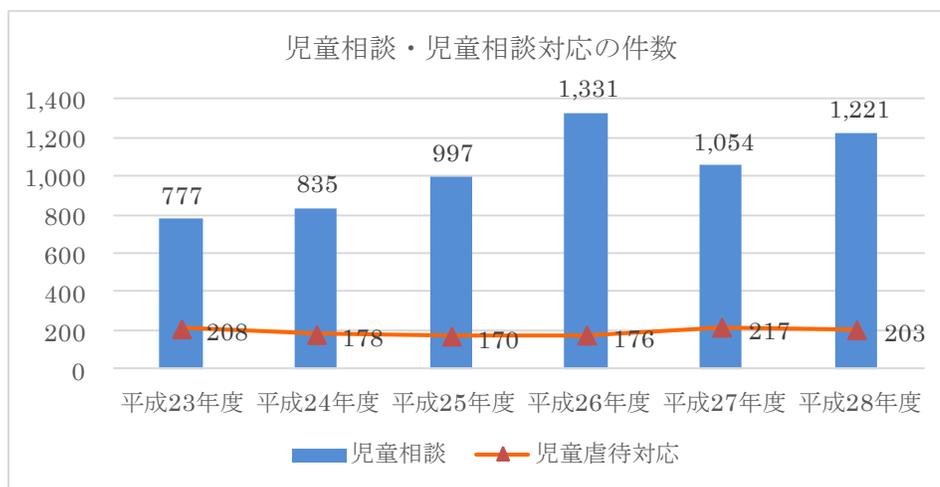
平成 29 年度取り組み実績及び平成 30 年度取り組み方針

児童虐待防止対策委員会

重点取り組み項目	No	具体的施策名
児童虐待の防止	2-①	新生児訪問事業の地域連携
	2-②	赤ちゃんふれあい体験事業
	2-③	児童虐待防止啓発事業

【平成 29 年度取り組み実績】

ア. 成果〈数値で表せるもの〉

**赤ちゃんふれあい体験授業後の生徒の意識向上、変化**

授業終了後の生徒へのアンケートで、命の大切さについて 95.8%の生徒が実感したと回答している。

イ. 成果〈数値で表せないもの〉

赤ちゃんふれあい体験授業後の生徒の意識の変化

授業終了後の生徒へのアンケートにおいて、以下の声が聞かれ、期待した効果が出ている。
(アンケートに寄せられた声)

- ・赤ちゃんは、とても小さくて、柔らかくて、ちょっとしたことで壊れてしまいそう…。でも、とてもあたたかくて、重さもあって、「ああ、生きているんだな…」と感じた。
- ・将来、自分の子どもができれば、しっかり大切に、いい子どもに育てたい。



赤ちゃんふれあい体験の様子

ウ. 29 年度の取り組みで最も成功した事例

学生との連携・協働による啓発活動の充実

久留米大学生によるオレンジリボンキャンペーンの取組

- ・ マナビィランドでは、子どもと学生によるオレンジメダルの作製を通し、普及啓発を図った。
- ・ 街頭キャンペーンでは、学生による児童虐待防止の普及啓発を図った。
- ・ 久留米大学学園祭（あのか祭）来場者に児童虐待防止の啓発を行った。

啓発活動における各団体との連携

- ・ オレンジリボンキャンペーンでは、要保護児童対策地域協議会の関係団体が参加し、街頭キャンペーンを実施した。



マナビィランド



街頭キャンペーン

エ. 29 年度で最も積極的に取り組んだ活動

子ども理解を深めるための連続講座

- ・ 児童虐待を防止するために、福岡県久留米児童相談所、民間団体、久留米市の3者による協働の事業での講演会を連続で開催。29年度は、「新しい家族のカタチ」をテーマに里親制度について講座を開催し、学ぶ機会を提供。



連続講座

オ. 分野横断的に行っていること

要保護児童対策地域協議会との連携

警察や児童相談所などの 22 の関係団体が構成する要保護児童対策地域協議会の代表者会議や実務者会議等を通して、児童虐待防止の取り組みを行っている。

カ. 今後の方向性や取り組みを進める上での課題

短期、中期、長期指標について、虐待の防止という成果がこれらの指標に示された数字だけでは図れない部分があり、関連性を実証するのが難しい。

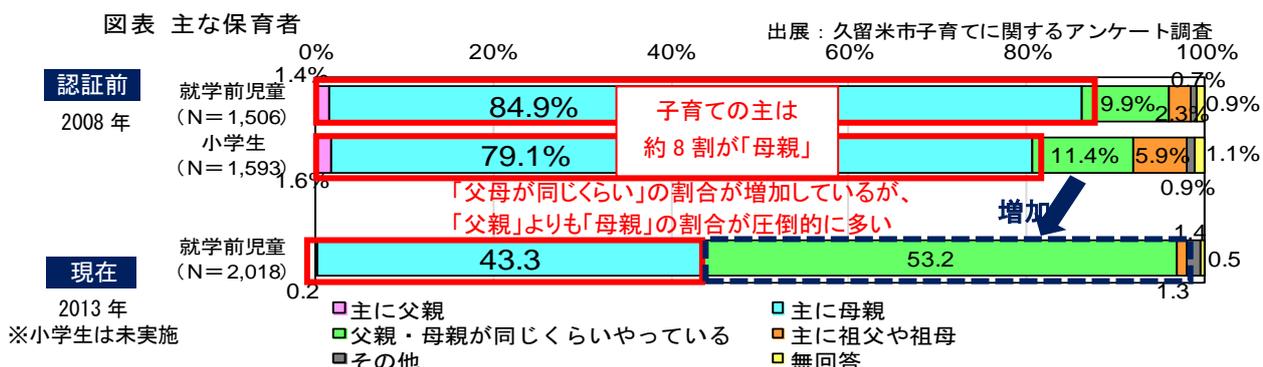
【平成30年度取り組み方針】

具体的施策		30年度取り組み方針
2-①	新生児訪問事業の地域連携	・民児協の主任児童委員部会、市（こども子育てサポートセンター）による協議を行いながら、同行訪問の拡大を図る。
2-②	赤ちゃんふれあい体験事業	・実施校の拡大に向け、取り組みの手法について検討を進める。
2-③	児童虐待防止啓発事業	・児童虐待防止の認識と子育てに関する相談窓口等を、一層多くの市民に周知するために、実施内容等の検討を進める。

(2) 児童虐待防止対策委員会

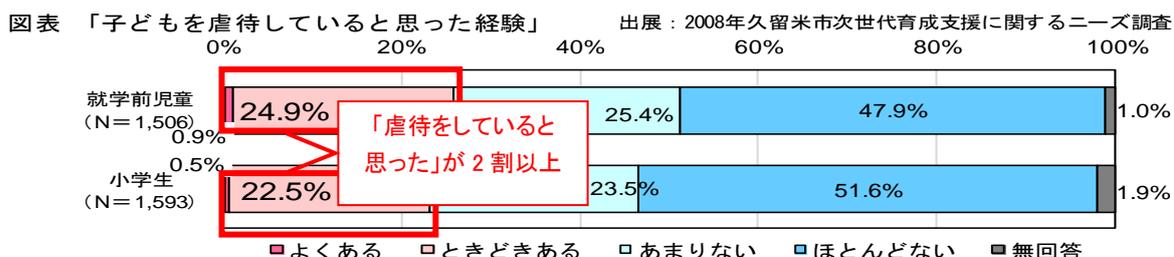
久留米市では、ハイリスクグループのひとつに「虐待を受けやすい子ども」を設定し、児童虐待の防止に取り組んでいます。その状況は、虐待の被害者は「小学生以下」が全体の80.2%を占め、加害者の66.4%が「実母」、虐待の種類は「ネグレクト」が53.9%と最も多くなっています。【図表 児童相談件数】【図表被害者】【図表加害者】【図表虐待の種類】

主な保育者については、「母親」が約80%、「父親」が1%台、「父親・母親が同じくらいやっている」が10%前後でしたが、近年の調査では、「父親と母親が同じくらいやっている」の割合が大きく増加しています。しかし、現在もなお「父親」よりも「母親」の割合が圧倒的に多く、子育ての中心を母親が担っているという状況は変わっていません。

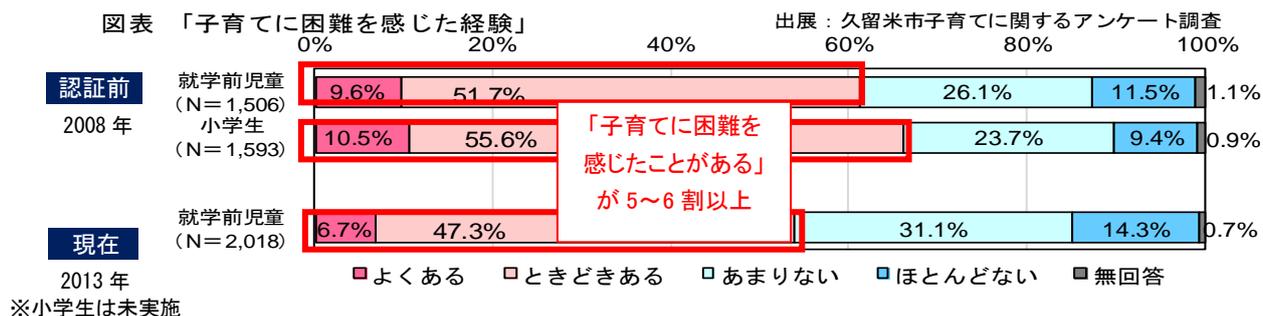


(就学前児童・小学生の保護者に「子どもの身の回りの世話を主にしている保育者」についてアンケート)

また、保護者の20%以上が「子どもを虐待していると思ったことがある」、半数以上が「子育てに困難を感じている」という状況です。



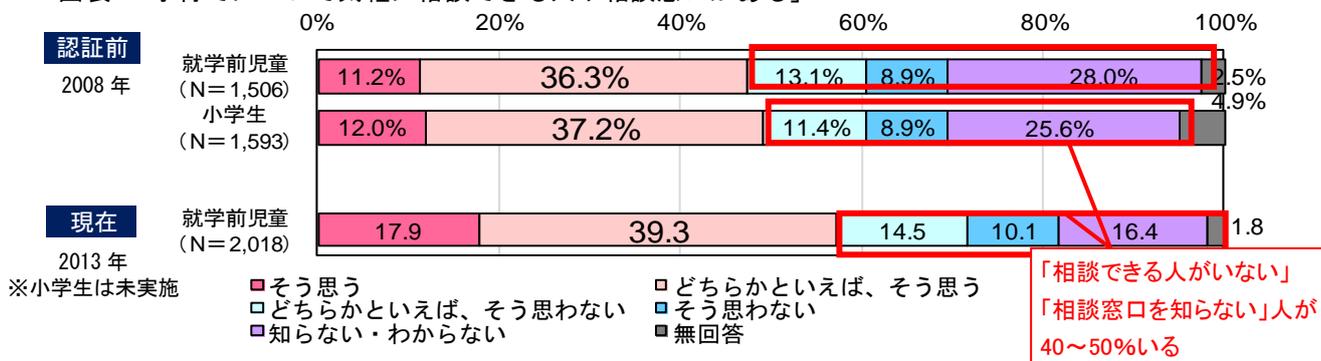
(就学前児童・小学生の保護者に「子ども虐待しているのではないかと思ったことがあるか」についてアンケート)



(就学前児童・小学生の保護者に「子育てに困難を感じたことがあるか」についてアンケート)

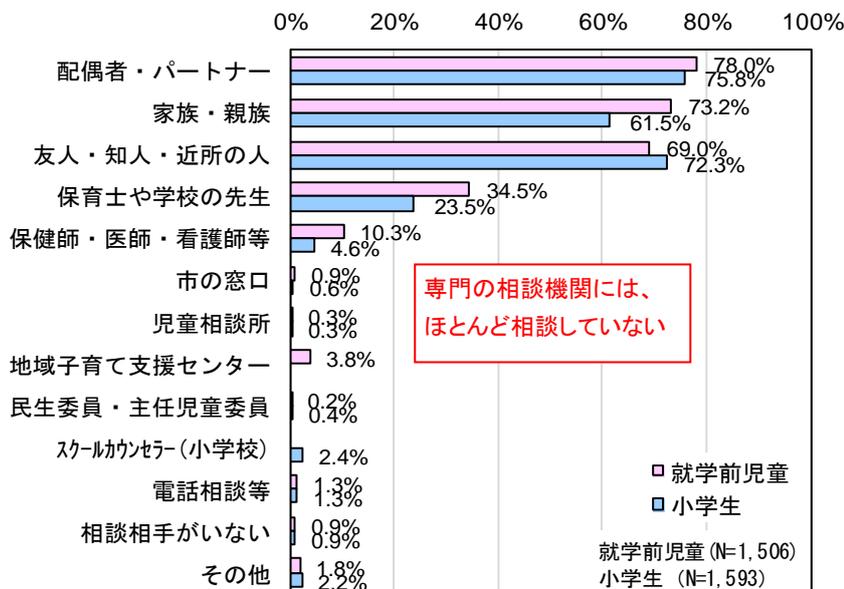
そのような中、保護者の40～50%が「相談できる人がいると思わない」または「相談窓口を知らない・わからない」と回答しており、子育てに関する不安や悩みの相談先について、大半の保護者が家族や友人を挙げ、行政や専門の機関にはほとんど相談していない状況です。

図表 「子育てについて気軽に相談できる人や相談窓口がある」



(就学前児童・小学生の保護者に「子育てについて気軽に相談できる人や相談窓口があるか」についてアンケート) 出展：久留米市子育てに関するアンケート調査

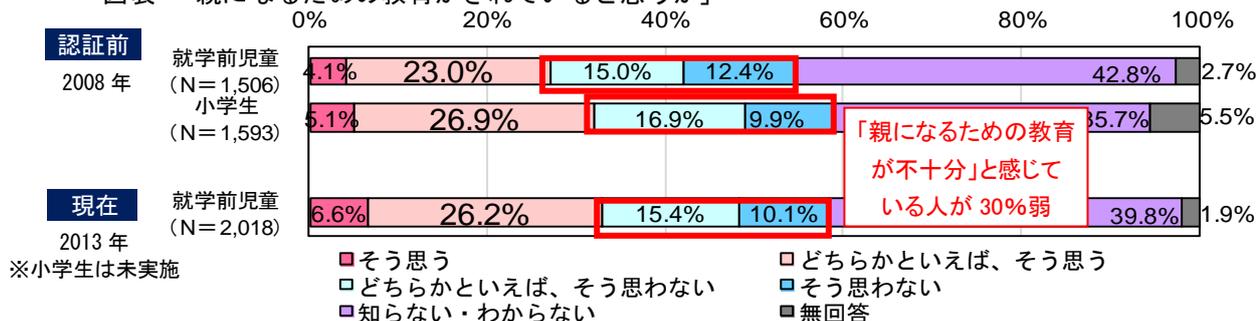
図表 「子育てに関する不安や悩みの相談先」 (複数回答)



(就学前児童・小学生の保護者に「子育てに関する不安や悩みの相談先はどこか」についてアンケート) 出展：2008年久留米市次世代育成支援に関するニーズ調査

「次世代の親になるための教育が十分でないと感じている」保護者が30%近くいます。

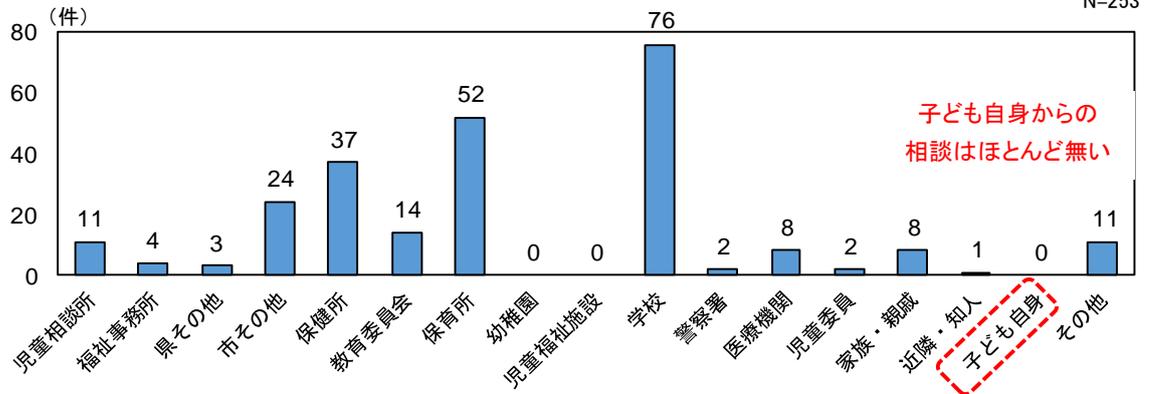
図表 「親になるための教育がされていると思うか」



(就学前児童・小学生の保護者に「次世代の親になるための教育がされていると思うか」についてアンケート) 出展：2008年久留米市次世代育成支援に関するニーズ調査

虐待相談の新規受付件数を経路別に見ると、学校や近隣・知人からの相談は多いが、子ども自身からの相談はほとんどない状況です。

図表 経路別虐待相談受付件数



出展：久留米市家庭子ども相談課統計（2012～2016年までの5年間）

重点項目	課題		方向性	No.	取組（当初）	見直し	No.	取組（現在）
	児童虐待防止	① 客観的	地域で子育て家庭が孤立化している【図表自治体加入率】	地域で気軽に相談できる体制づくり	1		乳児家庭訪問事業の地域連携	⇒ 拡充
②		虐待者の7割近くが実母である【図表実母7割】						
③ 主観的		子育てに困難を感じている保護者が多い【図表子育てに困難を】						
④		子育ての相談相手がいなかったり、相談窓口を知らない人が多い【図表相談相手がいない】						
⑤ 客観的		核家族化などの影響により、親になる前に子どもと接する機会が減少している【図表核家族】【図表自治体加入率】	親になるための十分な教育の支援	2	学校への出前サロン事業	⇒ 拡充	2	赤ちゃんふれあい体験事業 [対応する課題:⑤⑥]
⑥ 主観的		親になるための教育が不十分である【図表親になるための】						
⑦ 客観的		虐待を受けた子どもの大半は、小学生以下である【図表小学生以下】	子ども自身から相談できる体制づくり	3	子どもによるオレンジリボン作成	⇒ 拡充	3	児童虐待防止啓発事業 [対応する課題:⑦⑧⑨]
⑧		子ども自身からの相談が少ない【図表経路別相談件数】						
⑨ 主観的		子どもが虐待に関する正しい知識を得るための学習機会が少ない						

【児童虐待防止】 2-① 乳児家庭訪問事業の地域連携

＜拡充＞

課題	客観的課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で子育て家庭が孤立化している ・虐待者の7割近くが実母である 						
	主観的課題	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てに困難を感じている保護者が多い ・子育ての相談相手がいなかったり、相談窓口を知らない人が多い 						
目標	地域で気軽に相談できる体制作り							
内容	市が行っている「乳児家庭訪問事業」の地域連携として、各地域の住民の一人でもある主任児童委員が同行訪問し、子育て中の保護者と地域をつなげ、孤立を防ぐ。							
対象者	子育て中の家庭の母親							
実施者	主任児童委員							
対策委員会の関わり	構成メンバーである久留米市民生委員児童委員協議会の中の主任児童委員が同行訪問している。							
5年間の活動内容	<p>「乳児家庭訪問事業」は、赤ちゃんが生まれて4ヶ月以内に、保育士等が家庭を訪問し、赤ちゃんの成長の様子を確認し、母親等から子育ての相談に応じる事業である。</p> <p>2013年度から、この事業に主任児童委員が同行訪問し、子育て中の保護者と地域をつなげ、孤立を防ぐ取組を行った。具体的取組は次の2点。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育てに不安や悩みを持つ保護者からの相談に対し、地域に住む住民の一人として同じ目線で、親子の心身状況や養育環境を把握し、安心して子育てができるような地域連携につなげる。 ・子育て中の保護者が、孤立しないように、校区コミュニティセンターなどで開催している「子育てサロン」等の情報を保護者に直接提供。 							
質的成果	訪問ができた家庭は、その後、地域コミュニティセンター等で行われているサロンにも全員参加。また、サロンの参加者数も年間1万3～4千人と多く、子育て家庭と地域の橋渡しができており、子育て家庭の孤立を防いでいる。							
指標	内容	単位	2013	2014	2015	2016	2017	
活動指標	主任児童委員による妊産婦や子育て家庭への家庭訪問件数	件	4	1	10	11	13	
【短期】認識・知識	①子育てサロンの実施回数	回	470	457	426	425	405	
	②参加者数	人	13,801	13,641	14,458	13,132	11,163	
【中期】態度・行動	主任児童委員の同行訪問により子育てサロンにつながった割合 [市家庭子ども相談課統計]	%	100	100	100	100	100	
【長期】状況	子育てに困難を感じる割合 [子育てに関するアンケート調査(5年毎)]	%	54.0	—	—	—	—	



【児童虐待防止】 2-② 赤ちゃんふれあい体験事業 **<拡充>**

課題	客観的課題	核家族化や地域とのつながりの希薄化などの影響により、自分が親になる前に子どもと接する機会が減少している
	主観的課題	親になるための教育が不十分である
目標	親になるための十分な教育の支援	
内容	将来、親になる中学生に子育て体験をしてもらう。	
対象者	中学生、2015年度から小学生にも対象拡大	
実施者	主任児童委員、各校区の子育てサロン	
対策委員会の関わり	構成メンバーである久留米市民生委員児童委員協議会の中の主任児童委員が実施している。	
5年間の活動内容	<p>「中学校への子育て出前サロン事業」として、市内29校区、またはサークルなどで実施していた親と赤ちゃんが参加するサロン・交流事業を中学校で実施。母親から出産や子育てに関する話を聞き、赤ちゃんに触れ合う機会を提供することで、子ども自身に命の大切さや親への感謝、思いやりの心をはぐくみ、自尊感情の高揚を図った。</p> <p>2015年度から市内中学校に加え、小学校にも対象を拡大。また、保育園でのふれあい体験も加え、「赤ちゃんふれあい体験事業」として拡充。</p>	
質的成果	<p>実施中学校数は年々増加している。</p> <p>中学生からは、「命の大切さを知る」などの声が聞かれ、期待していた効果が出ている。</p>	



指標	内容	単位	2013	2014	2015	2016	2017
活動指標	赤ちゃんふれあい体験・保育体験等の実施学校数	校	3	3	4	6	8
【短期】認識・知識	旧 子ども自身から発せられた情報・相談の件数	件	0	0	0	1	/
	新 命の大切さについての認識の向上 [参加者アンケート]	%					
【中期】態度・行動	赤ちゃんふれあい体験等の新規実施校数	校	1	0	1	2	2
【長期】状況	虐待しているのではないかと思うことがある割合 [子育てに関するアンケート調査(5年毎)]	%	13.8	-	-	-	-

【児童虐待防止】 2-③ 児童虐待防止啓発事業 < 拡充 >

課題	客観的課題	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待を受けた子どもの大半は、小学生以下である ・子ども自身からの相談が少ない 						
	主観的課題	子どもが虐待に関する正しい知識を得るための学習機会が少ない						
目標	子ども自身から相談できる体制づくり							
内容	啓発活動（オレンジリボンの作製、街頭キャンペーン） 児童虐待防止の講演会の実施							
対象者	一般市民							
実施者	主に久留米市要保護児童対策地域協議会							
対策委員会の関わり	対策委員会の構成メンバーと連携した啓発活動等の実施							
5年間の活動内容	<p>児童虐待防止のシンボルマークであるオレンジリボンを作製</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市のイベントにおいて、地元大学生と連携してオレンジリボンに関する理解を深める。これにより、周りにいる信頼できる大人に話せる、相談することができることを認識し、友だち同士で虐待の気づきの視点を養う。 <p>2017年度、より効果的な啓発活動にするため、イベントや講演会なども含め、拡大した取組内容に変更し、「児童虐待防止啓発事業」として拡充。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演会は、委員でもある関連の官民団体との協働で、毎年度テーマを決めて開催 ・街頭キャンペーンは、毎年11月の「児童虐待防止月間」に合わせ、駅やショッピングモールでオレンジリボン等を配布。 							 
質的成果	児童虐待防止の認識向上につながり、早い段階での相談により、関係機関と連携し早期発見、早期対応ができるようになっている。							
指標	内容	単位	2013	2014	2015	2016	2017	
活動指標	イベントや講習会等の参加者数	人	932	1,058	1,003	688	1,130	
【短期】認識・知識	旧	子ども自身から発せられた情報・相談の件数	件	0	0	0	1	/
	新	児童虐待防止の認識の向上 [参加者アンケート]	%	2018年度より実施予定				
【中期】態度・行動	新	相談先の周知状況 [参加者アンケート]	%	2018年度より実施予定				
【長期】状況	一	虐待しているのではないかと思うことがある割合 [子育てに関するアンケート調査(5年毎)]	%	13.8	—	—	—	—

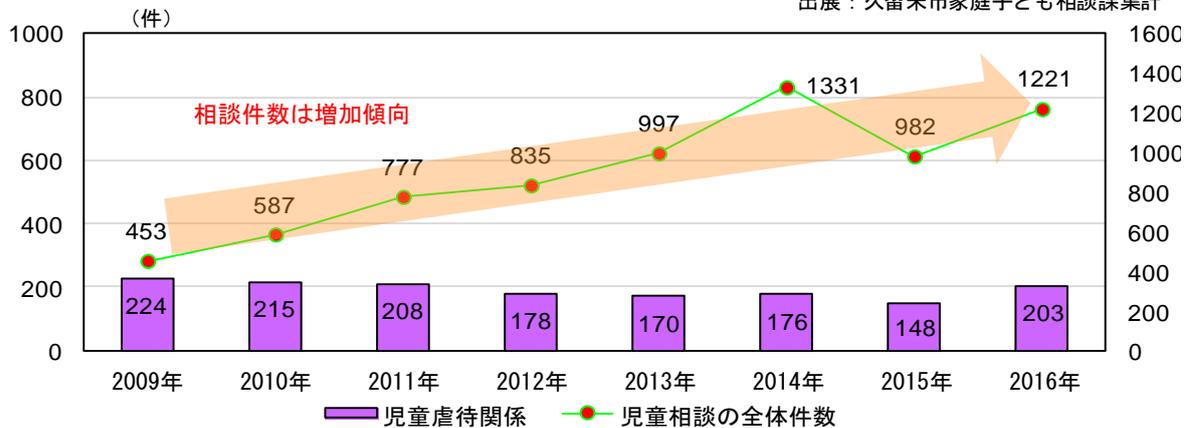
第2章 死亡やけが・事故などの状況

7 虐待・DVに関する状況

①児童相談件数の推移

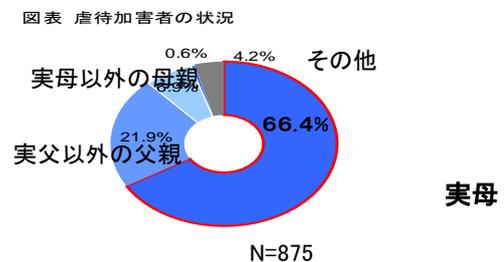
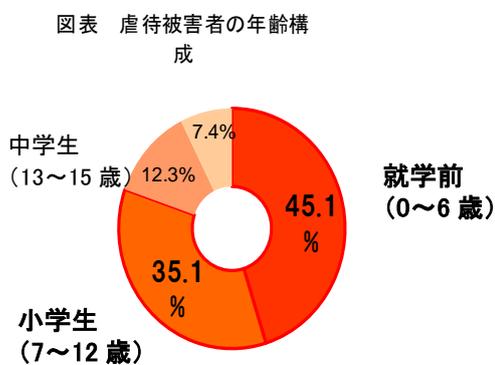
久留米市の児童相談件数は増加傾向にあり、その中で児童虐待に関する相談件数は、ほぼ横ばいの状況です。

図表 児童相談件数



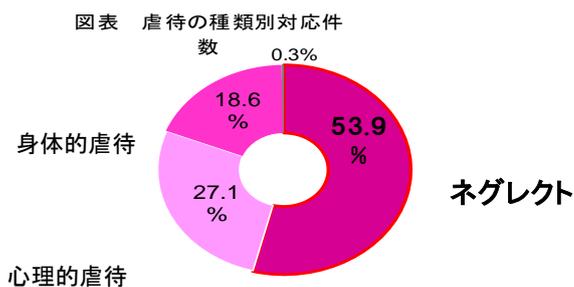
②児童虐待被害者の年齢構成、虐待加害者の状況、児童虐待の種類

虐待被害者の年齢構成は、0～6歳までの就学前の児童が全体の45.1%を占め最も多く、小学生と合わせると全体の80.2%を占めます。虐待加害者の状況は、実母が全体の66.4%を占めており、虐待の種類は、ネグレクトが最も多く、全体の53.9%を占めます。



出展：久留米市家庭子ども相談課統計
(2012～2016年までの5年間)

出展：久留米市家庭子ども相談課統計
(2012～2016年までの5年間)



出展：久留米市家庭子ども相談課統計
(2012～2016年までの5年間)